

歴史と伝統文化のまち「成田」には、さまざまな分野で活躍した人や郷土の発展のために尽くした人がたくさんいます。先人たちの生き方からふるさと成田の歴史に触れ、未来へ大きく羽ばたく指標となれば幸いです。

## 第22回 伊藤 音次郎

### 純民間飛行士となる

伊藤音次郎は、明治24(1891)年6月3日、大阪市南区<sup>えび</sup>恵美須町(現在の大阪市浪速区)に生まれた。同37年に大阪市立<sup>えび</sup>恵美尋常高等小学校を卒業後、銅・鉄地金商の佐渡島商店に勤めるようになった。店主の佐渡島英禄は、後に音次郎の飛行機製作における最大の理解者となり、資金面の援助などを行った。

明治41年、大阪で見た活動写真で、米国ライト式飛行機を製作して飛行するライト兄弟の姿に感動し「自分もあの兄弟のように飛行機を作って、大空高く飛んでみたい」と佐渡島に夢を語った。同43年6月、佐渡島商店で働きながらも飛行機への夢を捨てきれなかった音次郎は、日本最初の民間飛行に成功した奈良原<sup>みつき</sup>三次の経営する東京飛行機製作所に入所した。この製作所には練習場が併設されており、そこで純民間飛行士第1号となった白戸栄之助の指導を受け、同飛行士第2号となった。

こうして、飛行士としての実績を積んだ音次郎は、大正4(1915)年1月、伊藤飛行研究所を稲毛海岸に創立し、飛行士、航空技術者の養成に取り組み始めた。同時に飛行機製作も開始し、伊藤恵美第1号を完成させると、同5年1月8日には民間機初の東京訪問飛行を行った。しかし、同6年9月30日、千葉市周辺を襲った台風の風水害により、研究所や飛行機の格納庫など、全ての施設が壊滅してしまった。翌年の春、再起を期し



左/初飛行時の恵美Ⅱ号  
右/民間航空発祥之地記念碑(場所:千葉市美浜区)

明治24年～昭和46年(1891～1971)

大阪市南区(現在の大阪市浪速区)に生まれる。活動写真で見たライト兄弟の姿に感動し、飛行機を作って空を飛びたいという夢を抱き、東京飛行機製作所に入所。純民間飛行士第2号となる。稲毛に伊藤飛行研究所を創設し、飛行士・航空技術者の養成に取り組んだ。



て津田沼町鷺沼海岸(現在の習志野市)に、規模を拡充した新飛行場を建設し、伊藤飛行機製作所と社名も改め、再出発した。

その後、戦争への道を歩んだ国の影響で、会社は日本航空機工業と合併し、軍用機の製造を行っていた。しかし、昭和20(1945)年の終戦とともに、飛行機製造は禁止されてしまった。

### 農民生活を始める

音次郎は、元工場従業員の希望者を引き連れて、県有地の払い下げを受けた印旛郡遠山村十余三駒の頭(現在の東峰)に入植した。そこで悪戦苦闘しながら竹林を開き、サツマイモや落花生作りを始め、恵美開拓農業協同組合を結成した。

農民生活を営んでいると、日本の空に飛行機復活の動きが高まった。昭和41年、新空港の用地が三里塚に決定し、組合の持つ土地も用地の一部に入っていた。農業は軌道に乗っていたが、空への思いを持ち続けていた音次郎は広大な農地の全てを売り渡した。このことは、今後の空港発展の礎となった。

昭和46年12月26日、空港の開港も今日の航空業界の繁盛ぶりも見ることなく、80年の生涯を閉じた。亡くなる直前の同46年7月、稲毛海岸を埋め立てた千葉市稲岸公園の一角に有志とともに「民間航空発祥之地記念碑」を建立。その傍らには、ライト兄弟が初めて飛行に成功したキティホークの丘に生えていた松の種から、音次郎が育てた松が植樹されている。

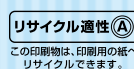
### 編集後記

もうすぐゴールデンウィークですね。今年は5月1日が祝日ということもあり、過去最長の10連休となります。旅行の計画を立てるなど楽しみにしている人は多いのではないでしょうか。ただ、私は休みが長いと休み気分が抜けなくなってしまうので、正直なところ3連休ぐらいでちょうど良いかなと思ってしまいます。とはいえ、もう二度とないかもしれない10連休。普段できないことを思い切り楽しんでみようとします。

平成31年4月15日号 No.1385

成田市のホームページ

<https://www.city.narita.chiba.jp>



広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。